

技術士第二次試験に合格して



木村 茂夫

勤務先：

株式会社 シビテック

水工部

〒003-0002 札幌市白石区

東札幌2条5丁目8-1

TEL 011-816-3005

FAX 011-816-2562

E-mail s.kimura@civitec.co.jp

専門：上下水道部門（下水道）

1. 自己紹介

私は、1966年(昭和41年)青森市に生まれました。陸奥湾を望む八甲田山系の麓で、緑豊かな森と清らかな川を遊び場として高校までを過ごしました。

その後、北海道大学に進学、工学部衛生工学科を卒業し上下水道コンサル(東京勤務)から同業他社(札幌勤務)を経て、平成15年に(株)シビテックに入社し、現在水工部に籍をおいています。

社会に出てから、一貫して“水”の仕事に携わっているのも、子供のころから、山で遊び、のどが渴けば川の水を飲み、『日本一おいしい水道水』と評価された中学校の近くの浄水場を遊び場とするなど、良好な水環境に恵まれて育ったからかもしれません。

現在は、管渠実施設計を主に行っていますが、地方の極小規模な下水道計画、大規模な広域汚泥処理構想、下水道終末処理場実施設計、下水道光ファイバー等多種多様な業務に携わることができました。この経験が、技術士資格取得に大きな要因になったと思います。

2. 技術士試験について

『技術士は、技術者として最も権威のある資格であり、技術力が客観的に評価され、発注者の信頼を得るため、コンサルタント技術者として必須の資格である』と理解していましたが、文章表現力に乏しいわたしには、縁のない資格と考えていました。会社には受験を勧められるので、毎年願書だけは出すという状態でした。

前職をリストラ退社後、再就職の厳しい状況に直面し、資格取得の必要性を痛感し、平成16年度に通信教育の添削指導を受け、第1回目の挑戦をしました。

結果は、一般・専門は合格でしたが、経験論文が不合格となり、自分の業務に対する取り組みの甘さを痛感させられることとなりました。

平成19年度から試験制度が変わり、経験論文の提出が筆記試験合格後となったのを機に、昨年2回目に挑戦、想定問題がそのまま出題されるという幸運もあり、合格することができました。

業務多忙中、経験論文作成の指導、口頭試験の模擬面接をしていただいた諸先輩の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

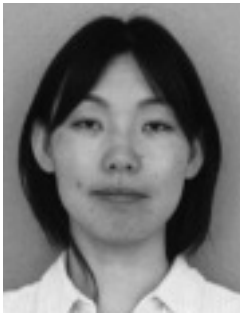
3. 今後に向けて

技術士を取得することにより、ようやく技術者としてのスタートラインに立ったと感じています。

技術士は、高い倫理意識と高度な専門的技術力を持って社会貢献することが求められ、これまで以上に社会的責任が重くなります。

このことをしっかりと自覚し、専門分野のみならず、幅広い分野で勉強し、技術力の向上に努めたいと考えております。

今後とも、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



安藤由里子

勤務先：

株式会社 北開水工コンサル
タント 防災環境部
環境計画グループ

〒080-0314 河東郡音更町共栄台西11丁目1番地

TEL 0155-31-0658

FAX 0155-30-0100

E-mail y-andoh@suiko.jp

専門：環境部門（環境保全計画）

1. 自己紹介

私は愛知県豊川市で育ち、帯広畜産大学への進学を機に北海道に渡ってきました。北海道の自然へのあこがれ、将来は野生生物の保護に関連した職業に就きたいという漠然とした思いがありました。学生時代には、釣りのサークルで道内各地の河川を回り、河川環境に興味をもつようになりました。卒業後、1998年（平成10年）に現在勤める会社に入社しました。

入社してからは、河川やダムの生物調査を担当しています。調査では、天然記念物、環境省レッドリスト、北海道レッドデータブックなどに指定される種が確認されます。中には、国内では北海道の一部地域でしか確認されていない種もあります。これらの種を保全するためには、何をすれば良いのか、自問しながら業務にあたっています。

2. 技術士試験について

技術士は、この業界において最も権威のある資格であり、会社で取得を奨励されていましたので、いつかは技術士になりたいと思っていました。しかしながら、初めて二次試験を受験したときは、問題の難しさとともに日頃文字を書いていないため手の痛さに参りましたし、簡単な漢字すら書けずひらがなで済ますという恥ずかしい解答だったと思います。

二回目以降の筆記試験対策では、過去問題をもと

に解答を作成し、先輩技術士の方に添削してもらい、また書き直す、という勉強を行いました。環境部門は、問題集や解答事例なども少なかったので、解答を添削してもらったことが、勉強方法として効果的だったのではないかと思います。

口頭試験では、模擬試験を実施してもらっていたにもかかわらず、当日は試験会場のエレベーターに挟まれてしまうなど、周りが見えておらず、極度の緊張を体験しました。試験の後は、もう駄目だと思い込み、しばらく暗い日々を過ごしましたので、合格の知らせを聞いたときはとても嬉しかったです。

合格できたのは、筆記試験、口頭試験ともに、先輩技術士の方々のご指導あったのことと、大変感謝しています。

3. 今後に向けて

私がこれまでの業務で携わった生物の多くは、開発等により生息（生育）地が減少している現状にあります。そして、近年の外来生物の影響や地球温暖化の問題が、その存続に追い討ちをかけています。

今回、幸運にも技術士となることができましたが、日々の業務では力不足を感じ、悩むことが多いです。例えば、ある種の保全対策を検討するにあたり、その生息（生育）環境を評価するには、どのような環境項目を測定すれば良いのか、想定する保全対策は実現可能か、などです。これまで、社内で測定できる項目などを活用して業務にあたってきました。今後は、異なる分野と連携し新たな技術を活用できるよう、技術力を上げていきたいと思います。また、野生生物とのあつれきが生じる中、地域住民の協力、合意形成も欠かせません。あらためて技術士の社会的責任と名称を語ることの責任の重さを感じています。

まだ新米技術士ですが、北海道の豊かな自然、生物の多様性を損なうことなく、次世代へ継承できるよう努力していきたいと考えておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、このような投稿の機会を与えて頂きまして、感謝申し上げます。



三輪 修也

勤務先：

財団法人 北海道電気保安
協会 調査部

〒060-0031 札幌市中央区
北1条東3丁目1-1

TEL 011-261-6491

FAX 011-261-6497

E-mail s-miwa@hdh.or.jp

専門：電気・電子部門（発送配变电）

1. 自己紹介

私は2009年（平成21年）3月まで北海道電力株式会社に勤務し、電力ネットワークの増強計画および運用、維持管理の業務を30年ほど担当、その後退職するまでの2年余りを大規模太陽光発電（メガソーラー）の研究に従事しました。電力会社のネットワーク部門として業務上必要な資格は電気主任技術者であり、技術士の資格にはしばらく関心がありませんでした。それが会社人生の終盤になったここ数年、「私は技術者なのだ」という存在証明をしたくなりました。そんな中で、メガソーラー研究という技術的体験論文にぴったりとなる業務を与えられたことが、本気で技術士試験に取り組むきっかけとなりました。

過去に1度、ろくに準備もせずに受験し、当然のごとく不合格通知を受けた教訓から、今回は過去問題や予想問題に取り組み、手書きでの答案作成訓練をし、何とか合格することができました。

2. 稚内メガソーラープロジェクトについて

近年、地球環境問題がクローズアップされる中、CO₂削減方策の一つとして、太陽光発電の普及拡大が叫ばれています。しかし、太陽光発電は出力が変動するため、電力系統に大量に連系された場合に電気の品質を悪くする恐れがあります。NEDO 技術開発機構は、太陽光発電大規模導入時の諸課題を解決するための研究開発をすべく、メガソーラープロ

ジェクトをスタートさせました。この研究地点として稚内市が山梨県北杜市とともに選ばれました。稚内は電力ネットワークの末端に位置し、「条件が厳しいがゆえに研究地点としては最適である」との評価を受けたものです。北海道電力が稚内市と連名で研究受託し、2006年（平成18年）から5ヵ年計画でスタートしております。

私はこのプロジェクトリーダーを拝命し、研究の再委託先である北海道大学、明電舎、日本気象協会、パナソニック環境エンジニアリングと共同で、太陽光発電設備構築、運用開始した設備の維持管理、そして発電実績データ分析や出力平滑化制御方式開発などの研究を進めてまいりました。研究開始から2年余りを経過し、海外を含む各種学会や講演会の場にてその成果報告を行っております。さらに稚内メガソーラーサイトにはこれまで1,500人余りの視察者やマスコミ取材があり、研究状況の説明と設備案内をしております。研究成果概要につきましては、以下のサイトに掲載されております。

http://www.hepco.co.jp/corporate/souken/annual_repo/pdf/3909solar.pdf

3. 今後の抱負

私は2009年（平成21年）4月1日より現在の勤務先に転籍いたしました。（財）電気保安協会は、電力会社から委託を受けて一般家庭の電気配線の調査（安全点検）を行うとともに、事務所・工場等の電気設備について、所有者との契約のもと保安維持管理を行っております。

地球環境問題と石油資源制約・価格高騰を受けて、省エネルギーの推進と新エネルギーの活用が今後一層重要になります。この実現に向け、お客様へのコンサルティングを行うことを通して、社会の発展と環境の保全、公共の福祉に微力ながらも貢献できればと考えております。

最後に、投稿の機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。

（協会 HP）<http://www.snowman.ne.jp/hochan/>



中本 伸一

勤務先:

有限会社 サイレントシステム
エグゼクティブエンジニア

〒062-0903 札幌市豊平区 豊平 3-6-1-7-201

TEL 011-299-3330

FAX 011-299-4008

E-mail naka@silentsystem.jp

専門: 情報工学部門 (情報ネットワーク)

1. 自己紹介

私は大学在学時代に株式会社ハドソンの創業メンバーの一人としてマイコンのシステムハウス業務を起業し、ゲーム産業の台頭と共に会社は大きく成長し上場を果たす事ができました。その成功をもう一度実現させたいという夢を追いかけるために、小さいながらも自分の会社を設立しました。そこで目指したのはあくまでも下請けではなく、独自性のある製品を自社で開発・製造し販売する電子機器メーカーです。小さくてもソニーやパナソニックのような業務形態で成功を目指して努力している毎日です。

2. 技術士を目指した理由

私が技術士を取得しようと考えたのは、メーカーとして自社の技術や製品を相手に紹介する際、少しでも相手に信頼してもらえたらと考えたからです。建築部門や土木部門の技術士なら実業務に必須な資格として認知されていますが、私の部門である情報工学部門では、名刺に肩書きを入れて相手に信頼してもらう事だけが価値だと言えます。幸い私が普段よく接する相手の殆どはエンジニアですので、技術士という肩書きはなかなか効果的です。そこで一念発起して技術士の試験にチャレンジしました。

3. 技術士一次試験

無線従事者の資格があったので一次試験の共通科目は免除でした。後で共通科目の問題を確認したところ大学入試レベルの問題でしたので、もし科目免除がなければ結構悩んだかもしれません。一次試験

のその他の科目は経験があればそれほど難しいものではなかったのでもうクリアできました。

4. 技術士二次試験

論文試験は最新の技術トレンドからの出題が多く、一夜漬けでの対策では全く対応できない問題ばかりでした。しかし情報工学部門のエンジニアの多くは最新の技術トレンドを追いかけるために IT 関連のニュースサイトを毎日チェックするのが普通です。こうしたサイトで継続的に勉強していれば、そう難しい問題ではないと感じました。サイトに掲載されている内容を基に自分の言葉で論文を書きました。面接試験は逆に新鮮でした。自分はいままで面接官の立場ばかりだったので、面接を受けるという経験は初めてだったからです。私の担当の面接官はとても親切で親しみやすく、何を意図してその質問をしているかが良く伝わってきて楽しい面接でした。技術的な質問は殆どなく技術者倫理やリスクマネジメントに関する意見交換という内容の面接でした。運良く一次二次とも一度の挑戦で合格できました。

5. 技術士になってみて

すでに技術士登録をして名刺に技術士の表示をして業務に活用しています。また CPD 活動にも積極的に参加しています。自社の業務で東京に出向く際には、なるべく CPD 活動にも参加できるように日程を工夫しています。他にも業界紙に掲載する技術記事の執筆も積極的に引き受けるようにしています。

このペースで努力して3年後には CPD 認定を取得できる事が目標です。何度か東京で行われた CPD 活動に参加してきましたが、私よりも遥かに長い経験と知識を持つ先輩エンジニアの方々が数多く参加されていて驚きました。51 歳という私の年齢でも、まるでヒヨッコです。部会や研究会などのいろいろなコミュニティに積極的に参加すると、メンバー同士でレベルの高い楽しい交流ができそうです。

技術士には幾つになっても常に新しい刺激が待っていると思います。私は技術士になれた事を機会に、死ぬまでエンジニアとしての道を追求していく所存です。どうかよろしくお付き合い下さい。